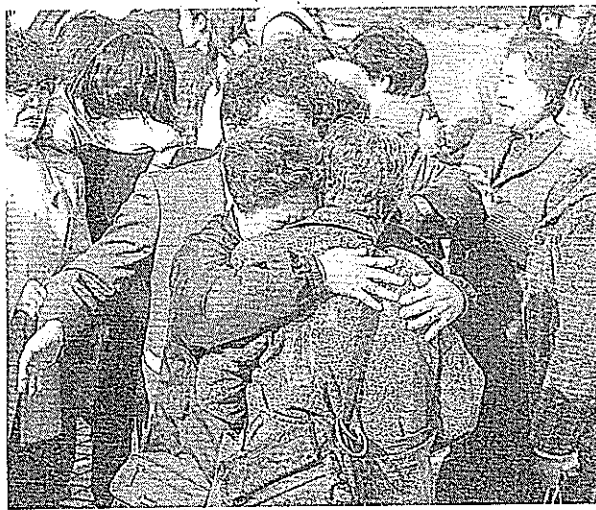


# 「祖国で生きる」光一筋

## 「残留孤児 理解した判決」

### 通訳の言葉 懸命に耳傾け

祖国で、日本人として、人間らしく生きる権利を認めてほしい。中国残留日本人孤児の訴えが、司法の場で初めて認められた。神戸地裁は1日、孤児の請求を認め、国に賠償を命じた。敗戦後の異国の地で、そして帰国した日本で、さまざまな苦しみを経験してきた孤児に、やっと一筋の光が見えた。高齢化が進む孤児たちは、喜びの表情を浮かべる一方、「政府の対応次第では長い闘いになる」と気を引き締めた。



勝訴の知らせを聞き、抱き合っている原告や支援者たち。1日午前10時7分、神戸地裁で、杉本康弘撮影

裁判長が日本語で判決を読み上げ始めると、法廷の原告席に座った原告団長の初田三雄さん(63)らは、内容をつかもうと懸命に聴き入った。中国語の通訳が始まって、身じろぎひびくはず、イヤホンから聞こえる言葉に耳を傾けた。原告席に入りきれず、傍聴席に座った原告も、目を閉じたり、首を傾けたりしながら、聞き取った。

上がった。抱き合っている神戸地裁の正面玄関で、支援者や大阪、京都の訴訟の原告ら約60人が集まり判決を待った。「勝訴」と書かれた紙を掲げた弁護士が現れる。拍手とともに歓声が、11時から、兵庫県弁護士会館で記者会見をした。宗藤泰而・弁護団長は、却されたのは残念だが、

「問題解決へ道開く」原告団

「この判決は、我々残留孤児の問題を解決する道を開いてくれた。ただし、判決を受けて政府がどのような対応をするのか、長い闘いになる」と厳しい表情を崩さずに語った。全国弁護士連絡会の弁護士は「孤児の困窮は国の責任と認められた。生活保護ではなく中国残留孤児独自の支援策の検討を、与党プロジェクトチームなどに求めていく」との方針を示した。

「来春必ず勝利」名古屋の原告団

中国残留孤児をめぐる集団訴訟は名古屋地裁でも207人が係争中。原告団と弁護士は1日、記者会見し、神戸地裁の判決を評価する一方、訴えの一部が退けられたことに不安をにじませた。名古屋訴訟は03年9月から4次にわたり、東海地方を中心とした計207人が提訴。3次までの訴訟は今年10月に結審し、来春に判決が言い渡される見通しだ。

## 働きたい話せれば...

「ちょっと遊んでね。」「損書」が認められた前山覚さん(67)は兵庫県尼崎市。にぎわう旧正月の光景を目にするたびに、母の最後の言葉を思い出して涙が止まらない。終戦翌年の2月23日。母はその夜、近くの雑木林で首をつっているのが見つかった。

開拓団として家族で旧満州に渡った。敗戦後、ソ連軍の侵襲から逃れる途中で父と弟が栄養失調で死に、母子2人で中国人の地主の家を引き取られた。「正義からいじめられ、つらい生活に耐えられなくなったのだらう」と思う。

44歳で永住帰国 前山覚さん(67)

「日本人として迫害されたために、自立できないままに仕事をこなした。それでも文化大革命のときには、娘を日本人と結婚させたとして、スパイ扱いされた義父が職場を追われた。

83年、44歳の時に妻と次男を連れて永住帰国した。故郷の鹿兒島県の奄美大島で、道路補修工事の仕事に就いた。同じ仕事をしていた日本人は8千円の日当がもらえるのに、日本語が話せない前山さんは5千円。仕事への意欲を失いかけた。

「家族を自分の力で養いたい。働く意欲も能力もあるのに、怠けていると思われ。日本語が話せれば...もう少し若い時に帰国できれば...。そう思う」と悔しい。

原告団 千子さん(66)は兵庫県神戸市。来春は必ず勝利できるという頑張りか、「と笑顔を見せた。弁護団の瀧康暢弁護士は「北朝鮮による拉致被害者と同様の支援を受け、権利があったと指摘し、点は画期的」と語った。一方で、「政府が日本への早期帰国に必要な措置を取らなかった点についての訴えを認めないのは残念だ」とも述べた。

特別立法で 支援体制を 田中宏・麗谷大経経済学部長(日本アジア関係史)の話。帰国を妨げた国の責任を具体的に示し、北朝鮮の拉致被害者並みの帰国後支援を求めた点で、非常に評価できる判決だ。政府は戦後、中国に多くの邦人が残されているのを知りながら台湾との国交を断り、中国と断交した。だからこそ日中国交正常化後は、十分な帰国支援策をとるべきだった。授業で、残留孤児の補償問題を取り上げると、学生からは拉致被害者との差について疑問の声があがる。判決が指摘するように、国がより大きい責任を負う残留孤児に対しては、特別立法で一刻も早く支援体制を整えるべきだ。

橋詰裁判長(48)は釧路地裁、同家裁、大阪高裁などを経て現職。神戸地裁で争われた尼崎公害訴訟で、裁判官の1人(右陪席)として00年1月、国と旧阪神高速道路公団に賠償を命じる判決を出した。

尼崎公害訴訟で 国に賠償命じる 橋詰裁判長

「来春必ず勝利」 名古屋の原告団